2017年（平成29年）
第110号
（2月1日）

# 平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

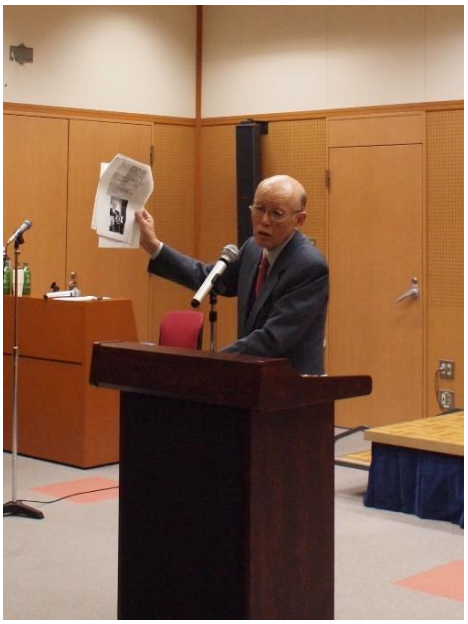
## WCRP 国際トラスティーズ日本グループ総会　～創立１０周年を迎えて～

平成 29 年１月 25 日、立正佼成会大聖堂１階大聖ホールにて、平成 29 年「WCRP 国際トラスティーズ・日本グループ」の総会が開催されました。

昼食をとりながらの懇談の中で、特別参加のプノム氏のお話を聞かせて頂きました。プノム氏はカンボジア出身で、ポルポト政権の中を生き延び「WCRP の援助のお陰さまで、今の私があります」という、とても貴重なお話でした。

開会にあたり、今回はトラスティーズ日本グループ創立１０周年を記念して、WCRP(世界宗教者平和会議)国際事務総長のウイリアム・ベンドレイ師、同副事務総長の杉野恭一師、同国際共同議長の庭野光祥師との記念撮影が行われました。

また、庭野光祥師からは、トラスティーズ・日本グループの長年の支援に対する感謝の言葉を頂戴しました。その後、田中常隆同グループ代表の挨拶に続き、酒井教雄相談役より、10 年の足跡をまとめた冊子の紹介と、その内容についての報告がありました。



活動報告の中では、昨年 50 周年を迎えた立花産業様より、「昨年に引き続き、これからも毎年継続してご支援をさせて頂きたい」と、お話がありました。

ＪＴ１０年の歩みの報告をされる酒井相談役

また、ベンドレイ国際事務総長の祝辞の中では、通訳をされる杉野副事務総長が涙で絶句されるシーンもあり、この 10 年間で総額２億 3,000 万円にもおよぶ善意に対して、心から感謝されるお気持ちが会場全体に伝わり、感動を分かち合いました。

その後、総会は無事に進行し、会員の皆様にご賛同いただき、閉会となりました。

節目の年に、多くの皆さまとこれまでの活動を確認する事ができました。また、これからの対社会に対するトラスティーズの役割の大きさを、改めて再認識させて頂いた日となりました。

祝辞を述べられるベントレー事務総長と通訳をされる杉野副事務総長

### 時事刻々

一月十五日に京都女子駅伝が行われました。雪が降る中、懸命に都大路を駆け抜ける選手たちの姿に感動した人は少なくなかったでしょう▼前日からの雪でレースの開催が危ぶまれていました。早朝から大会スタッフや市民が懸命に雪をかき、万全を期して開催にこぎつけることができました▼三条大橋のたもとに「駅伝の碑」があります。１９１７年に日本で最初の駅伝「東海道駅伝徒歩競走」が三条大橋をスタートし、東京・不忍池まで三日間かけて行われました。今年はちょうど百年目にあたります▼駅伝は日本独特の競技として発展してきました。一本のたすきをつないで、チームとしてゴールを目指すところに日本人にふさわしいものがあります▼二月には小学生による「大文字駅伝」と「京都マラソン」が、三月には「車いす駅伝」が行われます。選手たちが力を合わせて駆け抜けるように、世界中の人々が、対立するのでなく、協力し合っていきたいものです。

## 八坂神社　新年祭　～戒名室で平和の祈りを捧げる～

１月１０日、京都教会の戒名室において八坂神社の新年祭が行われ、楠木禰宜様が祈りを捧げられました。戒名室には八坂神社のお社が祀られており、この神事は毎年この時期に行われています。佐藤教会長はじめ、教会役員も一緒に参加させて頂き、共に平和への祈りを捧げました。

## 今月のことば　～「気にしない人」～　　青年男子部長　村上直也

今月は、男子部長の村上が担当させて頂きます。どうぞ、宜しくお願い致します。

寒修行を終え、今年一年の力がみなぎり、立春を迎えられている事と存じます。今年は、２月から１１月まで、「今月のことば」を青年が担当させて頂く事になりました。

会長先生のお言葉を通して、**「青年が何を感じ、何を学んでいるのかを知りたい！」**というリクエストがありましたので、有難く受けさせて頂きました。

今月の会長先生のご法話は**「気にしない人」**です。会長先生のご法話を何度か読ませて頂くと、会長先生はとても分かり易く、**「気にしない人」**になる為の修行方法を教えて頂いているのだなと感じました。ですが、それがなかなかできないからこそ、気にしても仕方のないことを気にして悩み苦しんでしまうのだなと感じました。

私は日頃、地球環境についてとても悩んでいます。私たちは、自分の都合のよい便利さを優先するあまりに、無意識のうちに母なる地球を傷つけたり、兄弟である動植物を傷つけたり、生命と思わずただの食品として他の命を頂戴しています。

その事にとても悩み、苦しんでいます。でも、その事ばかりを悩んでいたところで何か解決する訳でもない。今、自分にできる事を実践するしかない。という思いから、自分で車に乗らないようにする。という事と、通勤中のゴミ拾いを実践しています。

環境に対して少しでも目を向けてもらいたいという思いと共に、少しでもきれいな道にして、きれいな心で過ごしてもらいたい。それを実践するお陰さまで、**「今、思いやりに生きる」**実感を味わっています。**「すべては仏さまのおはからい」**という事で、私は先日、貴重な経験をさせて頂きました。

ある日、教会にある小型のヒーターの調子が悪いという事で、点検をしました。調べてみると、「強」の電源は入るのに、「弱」の電源が入らない。故障の原因が分からなかったので、サービスセンターに問い合わせると、修理に３～４千円掛かると云われました。

元々の機械の値段がさほど高くなく、修理に３～４千円掛かるのは痛かったので、分解して原因を探ってみると、故障の原因は配線ミスだと分かりました。元々買った時から「弱」の電源は入らない状態だったのです。これは欠陥商品だという事が分かったので、交換してもらおうとサービスセンターに連絡すると、思いもよらぬ返答が返ってきました。

「説明書に商品を分解しないで下さい。と書いていたと思います。分解してはいけないので、修理は有償になります」私は「常識的に配線間違いをした欠陥商品なのだから、有償なんておかしいだろう」とカッとなり、怒り交じりに抗議し、上司に確認するよう言いつけ、電話を切りました。

電話を切った後、私の頭には**「これは仏さまから何を教えて頂いているのだろう」**という思いがありました。「分かりました。すぐ交換します」という返事ならあっさり事は済んだのに、何故こういった現象を頂いたのか。他の人にこの話をしてみたり、繰り返し考えてみると、ある事に気が付きました。それは「３～４千円が惜しくて、開けたから分かったんだ」という事です。元々は修理費が惜しくて直せるなら自分で直そうと分解したのに、製品に欠陥があると分かったとたん、揚げ足を取るかのように「お前が悪い、交換しろ」という態度をとってしまいました。本当に**信仰者として何と恥ずかしい事をしているのか**と思いました。もし、気にしない人であれば、有償だと言われれば、分かりました。とすぐに受け止められることでしょう。

その日のうちに製品会社から電話があり、やはり有償修理になるとの事でした。私はとらわれなく、了承することができました。本当に、仏さまから大切なことを教えて頂きました。

これからも、気にしなくてもいい事にとらわれ、いろんな感情が起きてくると思いますが、会長先生から教えて頂いている通り、まず、**信じてやってみる。**そこから自分自身を少しずつでも変えていこうと思います。そして私は、これから**「すべては仏さまのおはからい」**という、この言葉を真言として、何か起きれば唱えて物事に当たりたいと思います。ありがとうございました。

合掌

## 新成人の門出を皆でお祝い　～京都市成人式＆第５１回成人式～

１月９日成人の日、京都教会の近くの「みやこめっせ」において「京都市成人の日記念式典」が行われ、ボランティアスタッフとして青年部から 11 名が参加し、館外誘導の役割で運営を陰で支えました。京都市の成人対象者は１万５１７６人で２回に分けられた式典には、計７８０２人が参加しました。

第２会場の「ユース２１京都」のブースでは姓名鑑定を行い、法輪クラブのメンバーを中心に 13 名が参加し、多くの新成人との関わりを持つことが出来ました。鑑定を行ってもらった成人者は**「今の名前で良かったと思えた」「将来の進むべき方向に参考になった」「すごく褒められ、のんびり、穏やかに人の役に立つようにしていきたい」「笑顔がすごくいいと褒めてもられた。これを大事に人とかかわる仕事に就いていきたい」「粘り強さを持ったらどうかとアドバイス頂いてよかった」**等の喜びの声を多く聞くことが出来ました。

また館外誘導に参加した青年部からは**「新成人の方にとっては一生に一度のイベントに携わらせてもらって有り難かった」「おめでとうございますの声に、ありがとうございますと返してもらい、和やかな空気感の式典なんだと実感した」**等の感想がありました。

また1 月 22 日には京都教会において「第５１回成人式」が行われ、１部成人式式典と２部パーティーに合わせて１３名の成人者が参加されました。式典は読経供養、祝辞代読、新成人自己紹介、記念品贈呈、佐藤教会長お言葉と続き、祝辞代読では国会議員からの電報が披露されました。

佐藤教会長はお言葉の中で、**「誕生してハイハイして歩き、走り、だんだん大きくなってきて今があるのは、支えてくれた家族、いろいろな先生、友人、そして仏さまのお慈悲を頂いてきたお陰であり、数々のご縁に感謝してほしい」**と述べられました。また、会長先生から**「一日一日を大事にして過ごしましょう」**と教えて頂いています。**「ご先祖に感謝し充実した人生を送るとともに、他者への貢献も心掛けて頂きたい」**と期待を寄せられました。

２部パーティーではバトン部のダンス披露やお弁当の他に壮年部が料理を振る舞うなど、多くの方々でお祝いをしました。クイズゲーム後の親御さんからの手紙披露では、２０年間の親の想いの深さを感じ、会場からも涙があふれ、楽しい中にも有り難いパーティーになりました。

## 右京・京洛明社活動　～昨年末の終い天神で募金の元気な呼びかけ～

昨年１２月２５日、京都の１年を締めくくる縁日、「終い天神」で、毎年恒例の右京明社と京洛明社合同の年末助け合い街頭募金活動を実施しました。当日は好天にも恵まれ、日曜日と重なり例年の１５万人を上回る参拝者でにぎわう中での善意の募金活動になりました。

午前１１時～１２時までは京洛明社。１２時～１３時は右京明社が担当し、今年は昨年より５名多い参加者でした。

右京明社では、毎年参加される２名の小学生兄弟が今年も元気な大きな声で「お願いします！」と募金を呼び掛けました。小学６年生のお兄さんは、来年は中学生で部活があるので参加できるか分かりませんが、都合がつけば参加したいと意欲的な返事がありました。両地区明社の子供さんの参加もあり今年の募金額は昨年の約２倍に達しました。やはり、お子さんの元気な「お願いします」の呼びかけには「ご苦労さん」の声と共に皆さんも善意の募金が多くなることを実感します。

## 法華経にみる平和の教え『法華経の世界観』～庭野開祖著『平和への道』より～

庭野開祖著の『平和への道』から法華経の各品にある『平和の教え』について紹介していきましたが、今回でひと段落とします。本会の会員が目指すもの（目的）として「人格完成」と「平和境建設」を会員綱領に掲げています。法華経にある「平和境の建設」について取り上げます。（編集部）

法華経の精神は、個人の救済や個人の真理へのめざめ（悟り）だけをめざすものではなく、社会の正法（しょうぼう）化を究極の目的としているのです。それは、法華経のあちこちに見られる「仏国土を浄（きよ）む」という言葉によく象徴されてします。中でも、それが最も力強く説かれているのは、「見宝塔品（けんほうとうほん）第十一」です。

この品において、諸仏は三度までも、この娑婆世界の汚れを払い、一瞬にして清浄の土に変えられています。まず、十方の諸仏が娑婆世界に行って、釈迦牟尼仏と多宝如来を供養しようとなさったとき、それが起こります。すなわち、「時に娑婆世界即ち変じて清浄なり」とあります。

第二に、釈迦牟尼仏が宇宙いっぱいに散らばっている、ご自分の分身を呼び集めようとなさったとき、それが起こります。すなわち、「時に釈迦牟尼仏は分身したもう所の諸仏を容受せんと欲したもうが故に、八方に各（おのおの）更に二百万億那由他（なゆた）の国を変じて、皆清浄ならしめたもう」とあります。

第三番目に、いよいよ十方の諸仏が参集されようとしたとき、また、それが起こります。すなわち、「釈迦牟尼仏、諸仏のまさに来（きた）りし坐したもうべきが為の故に、復（また）八方に於（おい）て、各二百万億那由他の国の変じて、皆清浄ならしめたもう」とあります。

このように、くり返しくり返し国土を浄められるということは、この世以外に仏さまの住まわれる世界というものがあるはずがなく、かといって、現実の汚れたままでは真理は行われない。だから、真理を迎え入れ、真理を世に充満させるためには、どうしてもまず国土を清浄なものにしなければならないからです。

「この世はもともと仏国土であるから、（自分が）心の悟りを開きさえすれば、そのまま寂光土となるのだ」という主観主義が、信仰の世界にはよくあります。それは、極言すれば「自分さえ悟れば、自分の心の幸せを得れば……」という利己的な信仰につながるということができましょう。

法華経は、人間が幸せになるためには、個人の心の悟り、家庭の幸せのみでなく、さらに一歩進めて、国土（社会）を浄めなければならないとするのです。社会を正法化しなければならないのです。現実から逃避するのでなく、あくまでも現実に体当たりして、これを清浄なものに変えていこう――と努力するのが、法華経の精神なのです。

その努力をわれわれ一般の人間に求めているのが、「従地涌出品（じゅうじゆじゅつほん）第十五」です。他の世界から来ていた無数の菩薩たちが、世尊に、「わたくしどもも、この娑婆世界にとどまり、この教えを広めたいと存じますが……」と申し上げますと、世尊は、「お志はありがたいが、この国土は、この国土の菩薩たちに任せます」と仰せられます。するとその瞬間、大地をメリメリと引き裂いて、そこから数え切れないほどの菩薩が現れてきました。

この菩薩たちは、われわれ地球上の人間を指しておられるのです。しかし、ただ無条件に人間を指しておられるのではなく、「真理に目覚めた人間」であり、しかも「真理を行ずる人間」でなくてはなりません。

このような経典の文証は、われわれの絶大な勇気を呼び起こさずにはおきません。われわれは、仏国土を浄める地涌の菩薩として、世界の恒久平和のために、力にあふれた、そして忍耐強い行動を続けていこうではありませんか。

### 2～3月の主な教会行事

| | | |
|---|---|---|
| 2月1日(水) | 9:00～ | 朔日参り |
| 3日(金) | 9:00～ | 節分会 |
| 4日(土) | 9:00～ | 開祖さまご命日 |
| 10日(金) | 9:00～ | 脇祖さまご命日 |
| 15日(水) | 9:00～ | 涅槃会・釈迦牟尼仏ご命日 |
| 3月1日(水) | 9:00～ | 朔日参り |
| 4日(土) | 9:00～ | 開祖さまご命日 |
| 5日(日) | 9:00～ | 創立記念日 |
| 10日(金) | 9:00～ | 脇祖さまご命日 |
| 15日(水) | 9:00～ | 釈迦牟尼仏ご命日 |
| 17日～23日 | | 春季彼岸会 |

### ●メッセージ

昨年の大晦日では除夜の鐘がうるさいという住民の苦情から中止にしたお寺があったらしいです。あるいは夜ではなく、大晦日の昼間に変更したところ多くの参拝者が訪れ、鐘をつく行列が出来たお寺もあったと聞きます。除夜の鐘は 108 つある煩悩を祓うためにつくものとされており、日頃から仏道修行をすると煩悩が取り除かれるのですが、厳しい修行を積んでいない我々においてもこうした心の乱れや汚れを祓う力が除夜の鐘にはあるという言い伝えがあるそうです。伝えるべきは伝え、時代に合わせるものは変化させる。情緒豊かな人が住む街づくりを目指したいものです。